

「19.動物園で知ろう！」活用事例

令和6年度版

学習プログラム「動物園で知ろう！」を過去に利用した学校の活用例を紹介します。

■活用例① 保育園3・4歳児対象

経緯：園児が絵本の動物（カバ）に興味を持ち、図鑑等でカバについて調べ始めたことをきっかけに、プログラムの依頼をいただきました。

内容：遠足当日にカバの担当飼育員へ園児が質問をしました。

プログラム終了後、カバについてわかったことを園児が絵で表現し、動物園に送っていただきました。

※本活用例を参考に「01.動物マスターになろう」のプログラムを作成しています。
未就学児でも実施可能ですので、ぜひご相談ください。

■活用例② 保育園5歳児対象

経緯：園児が畑で育てていた野菜が食害にあったのをきっかけに、ハクビシンに興味を持ち、畑の観察やごっこ遊びなどでハクビシンを題材に遊んでいたことからプログラムの依頼をいただきました。

内容：ハクビシンの生態や、野菜を動物から守るための方法について、ハクビシンの担当飼育員から園児にお話をしました。

プログラム終了後、保育園では学んだことを参考に、野菜を育てる畑に工夫を加えたそうです。

■活用例③ 小学校3年生対象 総合学習「学校一の動物博士になろう」

経緯：地域にある施設（動物園）を調べることから発展し、動物園の動物について調べて、発表する学習について学校側より依頼をいただきました。

内容：児童が調べたい動物を決め、学校が作ったワークシートに沿って調べ学習を行い、わからなかった部分を動物園の飼育員に質問しました。

プログラム終了後、調べたことをまとめて学年で発表をしています。

※本事例を参考に「01.動物マスターになろう」のプログラムを作成しています。動物に関する調べ学習を企画される際には「動物マスターになろう」のプログラムをお申込みください。

■事例④ 視覚支援学校（中学生）2年生対象 校外学習

経緯：生徒が動物園に遠足に来るにあたり、触覚や聴覚を用いて動物についてより深く学ぶことのできる体験がしたいとの依頼をいただきました。

内容：ヤギとヒツジを実際に触りながら、体の形の違いや、家畜としての利用方法などについて解説をしました。

プログラム終了後、知ったことを生徒が手紙にまとめ、動物園に送っていただきました。

■事例⑤ 高校1年生対象 理科「生態系のバランスと保全」「生態系と生物多様性」

経緯：理科の単元から発展し、先生が動物園の取り組みについて興味をお持ちになり、依頼をいただきました。

内容：動物園に来園してもらい、動物園で行っている「絶滅危惧種の保全に向けた取り組み」について講義を行いました。

プログラム終了後、生徒は学んだことをまとめて報告書を作成し、学校に提出をしています。

■事例⑥ 高校1年生対象 総合「人間と生物の共存を守るために」

経緯：日本の在来種や外来種、外来種が在来種に及ぼす影響などについての調べ学習の一環で依頼をいただきました。

内容：学校での事前学習で生じた疑問点をまとめ、飼育員に質問をしました。

プログラム終了後、問題解決のための提案として学んだことをまとめました。

※本事例を参考に外来種に関連するプログラムを作成しています。外来種に関する調べ学習を企画される際には「05.どこからきたの？外来種」をお申込みください。

■事例⑦ 高校1年生対象 総合「SDGsの取り組みを探そう」

経緯：学校でのSDGsについての学習から発展させ、SDGsの具体的な取組をグループごとに調べる学習として、依頼をいただきました。

内容：事前学習を基に、飼育員に動物園での取り組みについて質問をしました。

プログラム終了後、学んだことをまとめて、学校で発表を行いました。

※本事例を参考にSDGsに関連するプログラムを作成しています。SDGsについての学習を企画される場合は、テーマ「環境」のプログラム（プログラム番号05～11）からご希望のものをお申込みください。

■事例⑧ 専門学校2年生対象

経緯：動物業界を目指す人材を育成する専門学校で、動物園についてより具体的に学びたいと依頼をいただきました。

内容：動物園で取組んでいる事業の紹介や、トレーニング、エンリッチメント等について講義を行いました。

プログラム実施後、学生は学んだことをレポートにまとめ、学校と動物園に提出していただきました。